

2023
10月31日
火曜日

建設新聞

発行所 建設新聞社

本社	仙台市青葉区春日町7-5	TEL022(221)4601
青森支局	青森市古川1丁目21-11	TEL017(722)8631
岩手支局	盛岡市菜園1丁目3-6	TEL019(651)8045
秋田支局	秋田市山王4丁目3-10	TEL018(862)6921
山形支局	山形市松波1丁目10-16	TEL023(641)2800
福島支局	福島市宮下町17-20	TEL024(534)0138
東京支局	東京都江東区豊洲1-3-1	TEL03(5547)1367



地域住民が参加し作業を体験

耐久性、効率性などを検証

東北大IMC、
ニチレキ

山形県上市市で舗装補修工事の実証実験

東北大学大学院工学研究科インフラ・マネジメント研究センター（IMC、久田真センター長）と舗装会社のニチレキ（東京都千代田区小幡学代表取締役社長）は、今月26日、山形県上市市で地域住民参加型の舗装補修工事実証実験を行った。大がかりな機械が不要で平易に施工できる工法を用いて、傷んだ生活道路を住民の手によって修復させる試み。共同開発した新工法と既存の工法を比較し、耐久性などを確認する。新工法は生活道路用に新たに試作されたもので、低価格で施工できるのが特徴。実証実験で得たデータを分析し、試作品の改良につなげる。

材料開発や道路診断の先端技術を活用した新しい道路インフラマネジメントシステムを構築し、調査・研究開発や自治体への技術的支援、人材育成へ取り組んでいる。今回の実証実験は、生活道路の劣化を課題とする上市市に共同研究部門が技術協力を打診し実現した。実証実験を行ったのは、1965〜75年代に舗装整備された上市市宮脇地内を走る市道ケンモツ線の延長約40㍎。3㍎の幅員を半分に分けて、車道や空港での実績がある既存工法（スーパースーフトリート工法）と地域の生活道路向けに試作した新工法の2種類の表面処理工法で施工し、各工法の効果を確かめ経過観察を行うことで耐久性などを確認する。住民参加の

に平易に施工できる点が考慮された。地域住民が利用する生活用道路向けに試作された新工法は、比較的安価かつ数年の耐用年数を目標としている。また既存工法は、空港の滑走路やトラックなどの重量車両が多く通行する道路などで使用されているもので品質の信頼は得られており、新工法との比較対象とされた。いずれの工法も液体状のコーティング剤をレーキで塗布するだけの

シンプルな工法で、塗布後約30分で通行することが可能となるほか、コーティング剤で舗装面のひび割れを埋めることにより塗布以降の劣化進行を防ぐことが可能となる。実験には、地域住民や上市市職員など約20人が参加。ニチレキ社員のデモンストレーションに続き、市民主体での道路整備事業に取り組んでいる同市の地域住民自らが手際よく舗装面にコーティング剤の塗布を行い、効率性などを確かめた。実際に参加した地域住民は「自分たちでも簡単に作業することができた」と笑顔を見せた。共同研究部門では、今回の実証実験を踏まえ、さらなる官公庁の業務負担軽減と市民の安全性・利便性の向上を目指す新しい道路インフラマネジメントシステムの構築を行っていく。

作業の様子



作業の様子